

水稲種子の取り扱いについて

1 種子の受取り日について

- 温湯消毒済み種子は無菌状態ですので、種子受け取り後、直ちに浸種を行われるのが望ましいです。
- 種子の受取り日は移植日から逆算して決定します。
- 近年はハウスが大きくなった事もあり、高温になりやすく、苗の生育も早くなる傾向です。
よって、は種から移植までの日数を短縮する必要があります。
- 近年は5月20日以降が高温多照になる年が続いています。
移植が遅い場合は、育苗日数を28日程度になるように設定しましょう。

以上の事を考慮して、表1を参考に種子の受取り日を決定してください。

表1 5月20日 移植の場合

浸種始め	期間	浸種終り 催芽始め	期間	催芽終り 乾燥	期間	は種	育苗日数	移植日
4月8日	7日間	4月15日	1.0~ 1.5日	4月17日	1日	4月18日	32日間	5月20日

2 温湯消毒済み種子の取り扱いについて

温湯消毒済み種子は無菌状態なので、再感染の可能性があります。
清潔に保つことが重要です。
下記の項目に気を付けて管理してください。

納屋の中を清潔にする。	前年の籾殻の“カス”などがあった場合、病原菌があると再感染する可能性があるので清掃する。
種子の受け取り直後	直ちに浸種する。 あるいは、紙袋のまま、乾燥している場所で保管する。
浸種・催芽後のシート	種籾を広げるためのシートは常に清潔を保つ。

3 浸種の注意点

○浸種水温は11℃～13℃で8日前後です。

○水の交換は2日に1回行います

○昼夜の寒暖差がない方が吸水ムラになりにくいです。

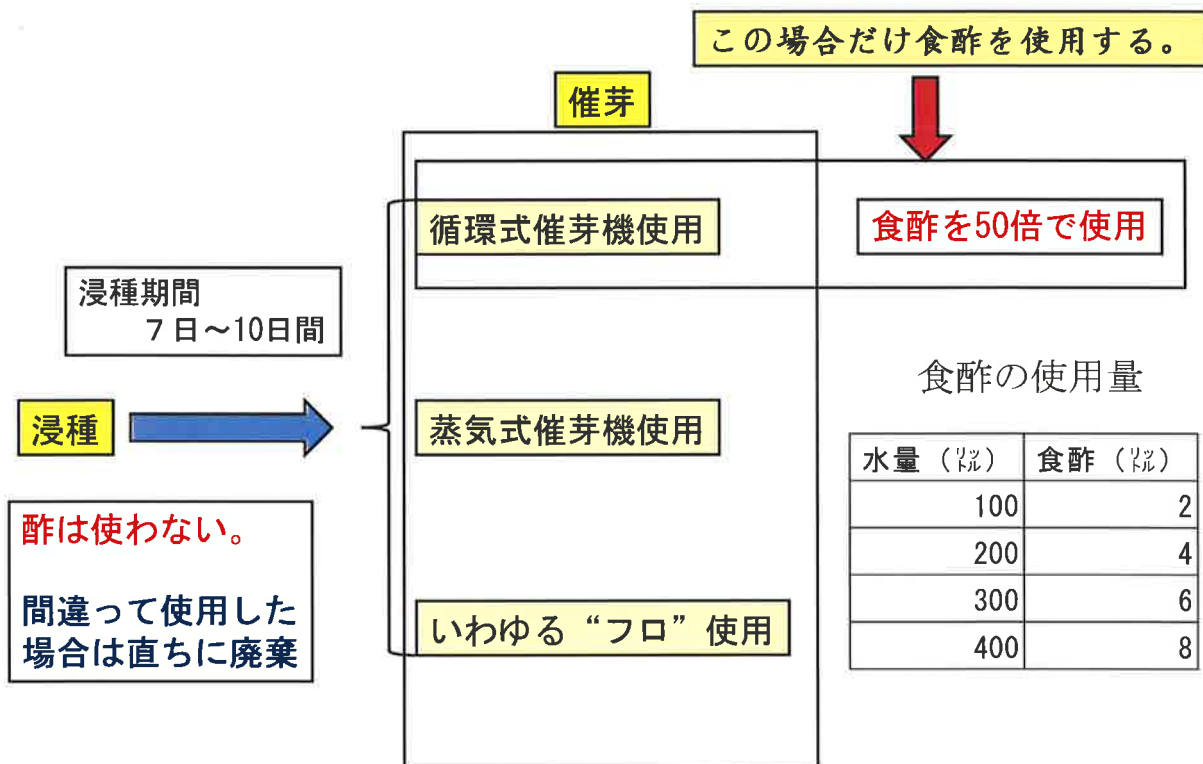
ハウス内で浸種する場合は水温が高くなりすぎないように注意が必要です。

温湯消毒種子では、化学農薬による消毒済み種子に比べて、吸水ムラや催芽ムラになりやすいので、浸種の温度はより慎重さが求められます。

4 褐条病対策の食酢の使用について

褐条病対策で食酢（穀物酢 酸度4.2%）を使用できるのは、循環式催芽機で“催芽を行う時期”です。

誤って、“吸水（浸種）時期”に食酢を使用しないでください。



5 催芽の注意点

消毒済み種子では芽が出た場合に伸びすぎを押さえていましたが、温湯消毒種子では発芽の早い芽はそのまま伸長します。

催芽ムラになった場合は、1～2割程度が伸びすぎになっても、7割程度が催芽するまで2～4時間ほど催芽を継続します。